



No. sma0054

(2021.10.28)

御大典記念 特別展  
「よみがえる正倉院宝物—再現模造にみる天平の技—」開催

会期：2022年1月26日（水）～3月27日（日）



模造 螺鈿紫檀五絃琵琶 一面

〔木地〕坂本曲齋（三代） 〔象嵌〕新田紀雲 〔加飾〕北村昭齋、松浦直子

〔絃〕丸三ハシモト株式会社

平成23～30年（2011～18） 宮内庁正倉院事務所蔵

サントリー美術館（東京・六本木／館長：鳥井信吾）は、2022年1月26日（水）から3月27日（日）まで、御大典記念 特別展「よみがえる正倉院宝物—再現模造にみる天平の技—」を開催いたします。

天皇陛下の御即位をはじめとする皇室の御慶事を記念し、正倉院宝物の精巧な再現模造の数々を一堂に公開する展覧会を開催します。

正倉院宝物とは、奈良・東大寺の倉であった正倉院正倉に伝えられた約9000件におよぶ品々です。聖武天皇ゆかりの品をはじめ、その多くが奈良時代の作で、調度品、楽器、遊戯具、武器・武具、文房具、仏具、文書、染織品など多彩な分野にわたります。中には、西域や唐からもたらされた国際色豊かな品々も含まれるなど、天平文化華やかかなりし当時の東西交流もうかがい知ることができます。しかし、1300年近くという長い時代を経て今日にいたる正倉院宝物は、きわめて脆弱であるため、毎年秋に奈良で開催される「正倉院展」で一部が展覧される以外はほとんど公開されてきませんでした。

正倉院宝物の模造製作は、明治時代に奈良・東大寺で開催された奈良博覧会を機に始められました。明治時代後半より、宮内省正倉院御物整理掛のもとで、模造製作は修理と一体の事業として取り組まれましたが、昭和47年（1972）からは宝物を管理する宮内庁正倉院事務所によって宝物の材料や技法、構造の忠実な再現に重点をおいた模造製作が行われるようになります。以来、人間国宝ら伝統技術保持者の熟練の技と最新の調査・研究成果との融合により、優れた作品が数多く生み出されてきました。

本展は、これまでに製作された数百点におよぶ再現模造作品の中から、選りすぐりの逸品を一堂に集めて公開するものです。再現された天平の美と技に触れていただくとともに、日本の伝統技術を継承することの意義も感じていただけることと思います。

#### みどころ① 再現模造の逸品を一堂に集めて公開するおよそ20年ぶりの展覧会

天皇陛下御即位をはじめとする皇室の御慶事を記念し、明治時代から行われてきた正倉院宝物の再現模造事業で製作された数百点におよぶ作品の中から、調度品、楽器、染織品、仏具など多彩な分野から選りすぐりの100件以上が出品されるかつてない規模の展覧会です。

※このうち、サントリー美術館では約70件と関連資料が展示されます。会期中、一部の作品について展示替を行います。

#### みどころ② 人間国宝ら伝統技術保持者の熟練の技に触れる展覧会

およそ1300年の時を経て、正倉院宝物の製作当初の鮮やかな姿が、現代の名工たちの技によってよみがえります。また、正倉院宝物に見ることのできる特殊な技法や素材に焦点を当て、模造製作の際の映像や関連資料なども作品とともに紹介し、再現模造事業を通じて継承された日本の伝統技術もご覧いただきます。

### みどころ③ 技法と芸術性の完全再現を目指した究極の伝統工芸品

明治・大正・昭和・平成と続き今日にいたる再現模造事業では、継承された伝統の技に加え、CTスキャンなどの最新の技術が融合することにより、内部構造までも再現した逸品が次々と製作されています。本展では平成最後の年に8年がかりで完成した「模造 螺鈿紫檀五絃琵琶」を筆頭に、近年製作された再現模造作品も紹介します。

現代の名工たちが、伝統工芸と最新の科学技術を融合させて再現した天平美の芸術的深みや品格が最大のみどころです。

#### Column 01

##### 「正倉院って何？」正倉院の歴史と宝物について

###### ●正倉院は、どこ、どのような施設だったのか？

奈良時代に東大寺大仏殿の裏手の小高い土地に設けられた、寺の中心的な倉庫でした。明治時代以降、国の管理となり、現在では宮内庁正倉院事務所がその任に当たっています。

###### ●正倉院宝庫の特徴は？

三角形の部材を井桁に組んで壁にする校倉造の建物です。北倉・中倉・南倉の三倉からなり、天皇の許可で扉を開閉する勅封倉として極めて厳格に管理され、正倉院宝物を守ってきました。

###### ●正倉院宝物はどのようなものか？

奈良時代、聖武天皇が崩御した際に光明皇后が東大寺大仏に献納した御遺愛品等を中心とする宝物群です。多種多様かつ国際色豊かな約9000件の品々が、1300年近く、人々の努力によって良好な保存状態で伝えられてきました。

#### Column 02

##### 「五絃琵琶はこうして再現された！」正倉院宝物の再現模造の方法

主材は希少材の紫檀です。乾燥による歪みが生じないように養生期間を設けながら段階的に加工しました。装飾には夜光貝による螺鈿や、現在では輸入が禁止されている玳瑁たいまいが用いられています。国内の良材を確保して、約600枚にもおよぶ装飾部材を加工しました。様々な素材や技法が複合的に用いられているため、多くの作り手が連携する必要があり、完成までに8年もの年月を費やしました。

## 《 展示構成 》

### 第1章：楽器・伎楽ぎがく



模造 酔胡王面 一口 財団法人美術院 国宝修理所

平成14～15年（2002～03）

宮内庁正倉院事務所蔵

正倉院宝物は、聖武天皇の御遺愛品が東大寺の大仏に捧げられたことに始まります。献納された品々は調度品、楽器、遊戯具など多彩です。本章では正倉院宝物の中から様々な工芸技法によって美しく装飾された「螺鈿紫檀五絃琵琶」をはじめとする楽器類の模造をご紹介します。また、大仏開眼会の際に演じられた伎楽の面や衣装などの模造も展示されます。鮮やかな色彩でよみがえった天平の精華をご覧ください。

#### 【主な出品作品】

- ・模造 すいこ おうめん 酔胡王面 一口 財団法人美術院 国宝修理所  
平成14～15年（2002～03） 宮内庁正倉院事務所蔵
- ・模造 螺鈿紫檀五絃琵琶 一面 [木地] 坂本曲齋（三代）  
[象嵌] 新田紀雲 [加飾] 北村昭齋、松浦直子 [絃] 丸三ハシモト株式会社  
平成23～30年（2011～18） 宮内庁正倉院事務所蔵
- ・模造 じこ 磁鼓 一口 加藤卓男 昭和62年（1987） 宮内庁正倉院事務所蔵
- ・模造 はなだし だいらはなもんにしき 縹地大唐花文錦 一枚 株式会社龍村美術織物 平成3年（1991）  
宮内庁正倉院事務所蔵

## 第2章：仏具・箱と几・儀式具き



模造 黄銅合子 一合

〔鑄造〕般若勘溪 〔彫金〕浦島紫星

平成16年（2004） 宮内庁正倉院事務所蔵



模造 黄銅合子の表面を削っている様子

宮内庁正倉院事務所蔵

奈良時代の社会では、律令制と仏教による護国体制が敷かれました。宮廷では国の統治のための儀式がとり行われ、大仏を擁する東大寺では壮麗な儀礼と仏前への献物が盛んに行われました。正倉院に伝来した、年中行事に関わる儀式具、東大寺ゆかりの仏具や箱・几の数々は、こうした世相を背景につくられたものです。多様な素材・技法が駆使された品々は、たしかな技術と美意識に裏付けられた天平工芸の水準の高さを物語ります。

### 【主な出品作品】

- ・模造 おうどうのごうす 黄銅合子 一合 〔鑄造〕般若勘溪 〔彫金〕浦島紫星  
平成16年（2004） 宮内庁正倉院事務所蔵
- ・模造 ふんじさいえのはっかくき 粉地彩絵八角几 一枚 〔素地〕坂本曲齋（二代） 〔彩色〕山崎昭二郎  
昭和49～50年（1974～75） 宮内庁正倉院事務所蔵
- ・模造 てんびょうほうもつふで 天平宝物筆 一本 藤野雲平（十四代）  
昭和53年（1978） 宮内庁正倉院事務所蔵
- ・模造 ねのひのめとぎのほうき 子日目利箒 附 ふんじさいえのいき 粉地彩絵倚几 一枚 附 一枚 森川杜園  
明治時代 19世紀 奈良国立博物館蔵

### 第3章：染織



模造 七条織成樹皮色袷縵 一領 株式会社龍村美術織物  
平成19～21年（2007～09）  
宮内庁正倉院事務所蔵

養蚕は今から約5～6000年前に中国で始まったと言われています。やがて養蚕や絹織物は大陸の東西へと広がり、日本においても奈良時代になると全国的に養蚕が行われていました。絹織物の基本とも言える平織りの<sup>あしぎぬ</sup>縵、綾、羅、そして複雑な文様を表した錦など多彩な織り技法による復元品をご紹介します。また『国家珍宝帳』の筆頭に記載された聖武天皇御遺愛の袷縵である「七条織成樹皮色<sup>しちじょうしょくせいじゆひしょくの</sup>袷縵」ほか袷縵に関わる一連の由緒ある品の模造をご覧ください。

#### 【主な出品作品】

- ・模造 七条織成樹皮色袷縵 一領 株式会社龍村美術織物  
平成19～21年（2007～09） 宮内庁正倉院事務所蔵
- ・模造 <sup>しろつるぼみあやにしまのきじよく</sup>白椽綾錦几褥 一張 高田俊男（協力 喜多川平朗）  
昭和61年（1986） 宮内庁正倉院事務所蔵
- ・模造 <sup>あかじからはなもののにしき</sup>赤地唐花文錦 一帖 株式会社川島織物  
平成14年（2002） 宮内庁正倉院事務所蔵
- ・模造 <sup>おんけきのつみのあわせ</sup>御袷縵 幞 裕 一条 高田装束株式会社  
平成22年（2010） 宮内庁正倉院事務所蔵

## 第4章：鏡・調度・装身具



模造 螺鈿箱 一合  
[素地] 川北良造 [髹漆・加飾] 北村大通  
[囀] 高田義男  
昭和51～52・54年（1976～77・79）  
宮内庁正倉院事務所蔵

正倉院宝物の種類はじつに多種多様ですが、中でも鏡をはじめくんろ薫炉・厨子・双六局などの調度品や、帯・刀子などの装身具は、その技術の高さにおいて宝物を代表するものと言えます。こうした宝物を、材質・形状・文様・技法等あらゆる面で忠実に再現することは、天平の工芸品の息吹を今に伝えるだけでなく、後世の日本の工芸を発展させる原動力ともなりました。

### 【主な出品作品】

- ・模造 らでんのほこ 螺鈿箱 一合 [素地] 川北良造  
[髹漆・加飾] 北村大通 [囀] 高田義男  
昭和51～52・54年（1976～77・79） 宮内庁正倉院事務所蔵
- ・模造 ぎんへいだつのごうす 銀平脱合子 一合 北村昭齋 平成4年（1992）  
宮内庁正倉院事務所蔵
- ・模造 こんぎょくのおび 紺玉帯 一条 牧田三郎 昭和55年（1980）  
宮内庁正倉院事務所蔵
- ・模造 はくげのつかすいかくのさやのしょうさんごうとうす 白牙把水角鞘小三合刀子 一口 [刀身] 宮入法廣 [研磨] 熊井光徹  
[外装] 高山一之 [金具] 宮島宏  
平成22～23年（2010～11） 宮内庁正倉院事務所蔵

## 第5章：刀・武具



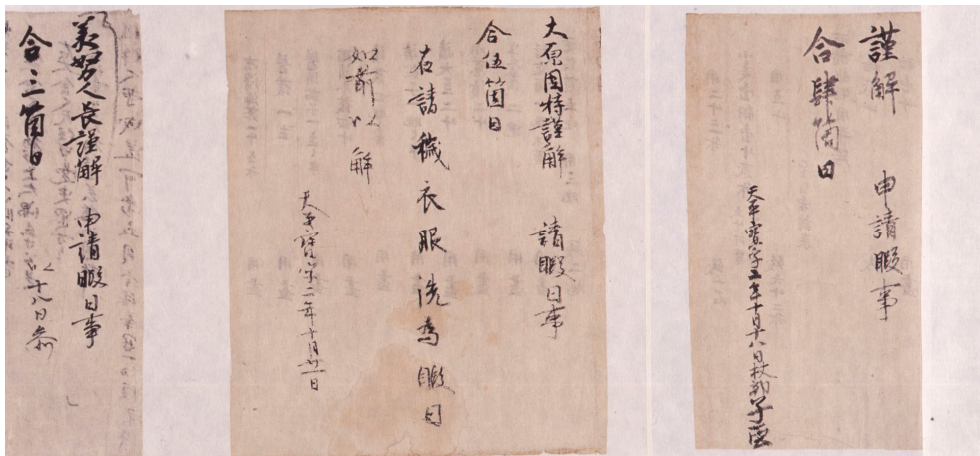
模造 金銀細荘唐大刀 一口  
明治時代 19世紀 宮内庁正倉院事務所蔵

正倉院は古代の武器・武具の宝庫でもあります。争乱の続いた奈良時代、正倉院から武器が出蔵されることもありましたが、55口残る大刀の中には、装飾を凝らした儀仗用の大刀がある一方、実用本位の大刀も少なくありません。多数伝わる矢は、矢羽根の多くが失われていますが、模造により当初の姿が復元されました。武器・武具が示す華麗な装飾はもちろん、優れた機能美の世界をご覧ください。

### 【主な出品作品】

- ・模造 きんぎんでんかざりのからたち 金銀細荘唐大刀 一口 明治時代 19世紀  
宮内庁正倉院事務所蔵
- ・模造 きんぎんかざりのおうとう 金銀荘横刀 一口 奈良博覧会社 明治8年(1875)  
奈良国立博物館蔵
- ・模造 しろかずらのこらく 白葛胡禄 第一号 一口 明治36年(1903)  
宮内庁正倉院事務所蔵

## 第6章：筆墨



模造 続修正倉院古文書 第二十卷 [写経生請暇解] 一卷  
国立歴史民俗博物館 昭和62年(1987)



奈良時代の役所は文書によって運用されていました。文書行政の実態は、660巻  
余り伝わる正倉院文書にうかがうことができます。正倉院文書は東大寺写経所が  
伝えた帳簿群が中心ですが、よそで不要になった紙の裏を使うケースが多かった  
ことから、多種多様な文書が残りました。展示では多色コロタイプ印刷による精緻  
な模造によって、正倉院文書の全体像に迫ります。

### 【主な出品作品】

- ・模造 続修<sup>ぞくしゅう</sup>正倉院<sup>しょうそういん</sup>古文書<sup>こもんじょ</sup> 第二十卷 [写<sup>しゃ</sup>経<sup>きやう</sup>生<sup>せい</sup>請<sup>せい</sup>暇<sup>かい</sup>解<sup>げ</sup>] 一卷  
国立歴史民俗博物館 昭和62年(1987)
- ・模造 正倉院古文書正集 第三十八卷 [筑<sup>ちく</sup>前<sup>ぜん</sup>国<sup>くに</sup>嶋<sup>しま</sup>郡<sup>ぐん</sup>川<sup>かわ</sup>辺<sup>べ</sup>里<sup>り</sup>戸<sup>こ</sup>籍<sup>せき</sup>] 一卷  
国立歴史民俗博物館 昭和57年(1982)
- ・模造 正倉院古文書正集 第十卷 [大<sup>やまと</sup>倭<sup>の</sup>国<sup>くに</sup>正<sup>しょう</sup>税<sup>ぜい</sup>帳<sup>ちやう</sup>] 一卷  
国立歴史民俗博物館 昭和59年(1984)
- ・模造 正倉院古文書正集 第七卷 [良<sup>らう</sup>弁<sup>べん</sup>牒<sup>ちやう</sup>・道<sup>どう</sup>鏡<sup>きやう</sup>牒<sup>ちやう</sup>ほか] 一卷  
国立歴史民俗博物館 昭和59年(1984)
- ・模造 続々修正倉院古文書 第一帙 第一卷 [写<sup>しゃ</sup>経<sup>きやう</sup>生<sup>せい</sup>手<sup>しゅ</sup>実<sup>じつ</sup>] 一卷  
国立歴史民俗博物館 平成11年(1999)

### 【本展における展覧会関連プログラム】

#### ◎講演会 I

「正倉院宝物の再現模造—その歴史と魅力—」

講師：西川明彦氏（宮内庁正倉院事務所長）

日時：2022年1月26日（水）14時～15時30分

#### ◎講演会 II

「螺鈿紫檀五絃琵琶の再現模造について—螺鈿加飾を中心に—」

講師：北村繁氏（漆芸家）

日時：2022年2月6日（日）14時～15時30分

※いずれも当館ウェブサイトよりお申込みください。応募者多数の場合は抽選。

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。

その他のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

御大典記念 特別展  
「よみがえる正倉院宝物一再現模造にみる天平の技一」

- ▼会 期：2022年1月26日（水）～3月27日（日）  
※作品保護のため、会期中展示替を行います。  
※会期は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。
- ▼主 催：宮内庁正倉院事務所、サントリー美術館、朝日新聞社、NHK
- ▼学術協力：奈良国立博物館、九州国立博物館
- ▼協 賛：サントリーホールディングス、三井不動産、ライブアートブックス
- ▼後 援：日本工芸会
- ▼会 場：サントリー美術館  
東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階  
〈最寄り駅〉 都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結  
東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結  
東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

【基本情報】

- ▼開館時間：10時～18時  
※金・土および2月10日（木）、3月20日（日）は20時まで開館  
※いずれも入館は閉館の30分前まで  
※開館時間は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。
- ▼休 館 日：火曜日（ただし3月22日は開館）
- ▼入 館 料：  
・当 日 券：一般1,500円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料  
・前 売 券：一般1,300円、大学・高校生800円  
※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソン  
チケット、セブンチケットにて取扱  
※前売券の販売は展覧会開幕前日まで  
※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ
- ▼割 引：  
・あ と ろ 割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引  
※割引適用は一種類まで（他の割引との併用不可）

▼呈茶席（お抹茶と季節のお菓子）

日 時：1月27日（木）、2月10日（木）・24日（木）、  
3月10日（木）・24日（木）

12時、13時、14時、15時にお点前を実施

（お点前の時間以外は入室不可、及びお抹茶とお菓子は召し上がれ  
ません）

会 場：6階茶室「玄鳥庵」 定員：各回12名／1日48名

呈茶券：1,000円（別途要入館料）

※呈茶券は当日10時より3階受付にて販売（予約不可、先着順で販売終了、お一人様  
2枚まで）

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。

▼一般お問い合わせ：03-3479-8600

▼美術館ウェブサイト：[suntory.jp/SMA/](https://www.suntory.jp/SMA/)

▽プレスからのお問い合わせ：〔学芸〕安河内 〔広報〕吉岡

メールでのお問い合わせ、及びプレス用画像ダウンロードのお申し込み：

2021年10月28日（木）から [https://www.suntory.co.jp/sma/info\\_press/](https://www.suntory.co.jp/sma/info_press/)

以 上